

CHUSUGI × BUNGA KUBU

スチューデント・ライブラリアン
活動報告

vol.9 - 2023年度



2023 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告

目 次

・ スチューデント・ライブラリアン 9 期生 活動記録	… 3
・ スチューデント・ライブラリアン活動報告	
文学部 人文社会学科 社会情報学専攻 3 年 川上 春香	… 4
文学部 人文社会学科 国文学専攻 2 年 村上 日奈子	… 6
文学部 人文社会学科 国文学専攻 2 年 川副 晴菜	… 8
文学部 人文社会学科 国文学専攻 2 年 多田 紗菜	…10
文学部 人文社会学科 哲学専攻 1 年 折出 実優	…12
文学部 人文社会学科 社会情報学専攻 1 年 下村 愛美	…14
・ リエゾン文庫書目一覧	…16





スチューデント・ライブラリアン9期生 活動記録

2023 年度

- ・応募期間 4月20日（木）～5月17日（水）
- ・選考方法 書類審査・面談
- ・面談日程 6月1日（木）
- ・応募者数8名 採用者数6名

活動回数	日付		開催形式
1	6月23日	(金)	オンライン
2	7月14日	(金)	オンライン
3	7月28日	(金)	杉並高校
4	8月2日	(水)	杉並高校
5	9月1日	(金)	杉並高校
6	9月15日	(金)	杉並高校
7	9月16日	(土)	杉並高校
8	9月17日	(日)	杉並高校
9	11月18日	(土)	杉並高校

- ・活動報告会 2024年3月27日（水）
- 

1. はじめに

本年度のスチューデント・ライブラリアン活動は、大学生6名、高校生2名で行われた。本書では、①緑苑祭での展示、②読書会（ビブリオバトル）の活動についてそれぞれの成果や反省点について順番に述べる。

2. 活動詳細

(i) 緑苑祭展示

緑苑祭では、「ライブラリーナビ」、「本の福袋」、「課題図書ランキング」の計3つの展示を行うことが出来た。

まずライブラリーナビとは、図書館利用者をナビゲートするための手のひらサイズのじゃばら折りのリーフレットのことである。私は大学の授業でライブラリーナビを知り、緑苑祭で活用することで来場者の方に簡単に分かりやすく中央大学と中央大学杉並高校について理解してもらえると考え活用を決めた。杉並高校の図書委員会に声をかけ、8つのテーマをクラスごとに分担して計24枚作成した。テーマは「リエゾン文庫（文学部に関係する書類を集めた文庫）」「多読本」「雑誌コーナー」「DVD」「課題図書」「図書館利用案内」「卒論」「中大縁関連」である。

次に本の福袋である。本の福袋とは、設定したテーマに関する本を複数組み合わせ合わせて紙袋に入れて貸し出すものである。本来は中身が分からないまま貸出するのだが、今回は福袋の中身が分かる状態での展示とした。緑苑祭ではリエゾン文庫から3種、課題図書から3種の計6種類の福袋を展示した。また、貸出の感覚を味わえるように、本の書影とあらすじを入れた封筒を用意し、来場者が持ち帰れるような工夫を凝らした。

最後に課題図書ランキングである。杉並高校では、3年間で100冊読むという読書課題がある。そこで、杉並高校の生徒にアンケートを取り、学年別で人気の課題図書をランキング化したものを展示した。加えて、ランキングに入っていた本の実物も展示した。

緑苑祭展示での良かった点として、スチューデント・ライブラリアンが大人数であったことで、3つもの展示をすることが出来たことが挙げられる。事前に図書館の位置的にあまり来場者は来ないというお話を伺っていたが、予想以上に来場者が多く、中でも受験生やその保護者の方と話す場として機能することが出来たのが良かったと思う。ライブラリーナビでは、スチューデント・ライブラリアンだけでなく、図書委員会を巻き込むことができたため、今学期にまだ1回も活動していなかった図書委員会を動かすきっかけにもなった。反省点としては、リエゾン文庫や課題図書といった特別な言葉に関する説明が不十分になってしまい、来場者が理解するのに時間がかかってしまったことが挙げられる。また、



図1 緑苑祭での展示

せっかく参加してくれたスチューデント・ライブラリアンの高校生を巻き込んだ活動が出来なかったため、今後のスチューデント・ライブラリアンではこの反省を生かして活動してほしいと思う。

(ii) 読書会 (ビブリオバトル)

本年度は、1冊の本を読んで話し合うという読書会ではなく、おすすめの本を紹介するビブリオバトルのような形式で行った。また、バトルという名前ではあるものの勝敗を決めるのではなく、参加者に楽しんでもらうということに重点を置いて活動した。ポスターを展示したり、担当の先生から声をかけていただいたりしたことで、読書会には5名の高校生が参加してくれた。当日は、自己紹介から始まり読書会に関する説明、グループに分かれておすすめの本の紹介、感想を記入し交換するといった流れで行われた。

読書会の良かった点は、グループに分けたことでアットホームな雰囲気で行うことが出来たこと、高校生だけでなく大学生にとっても新たな分野の本に出会える良い機会になったことが挙げられる。一方で、読書会を行ってみて高校生のレベルが高いことが分かったためバトル形式でも良かったと思った。また、本を紹介する時間を最初に決めておくべきだと感じた。

3. 活動を通して

まず大人数であったことで良い点もちろんあったが、全員の予定調整が難しく文化祭の活動がメインになってしまった。もっと他のイベントや取り組みも行えたら良かった。今後の活動において、本年度のアイデアや反省点が生かされると良いなと思う。

筆者は社会情報学専攻で司書課程を履修していることもあり、今回の活動は利用者の視点に立って考えることの重要性を知る良い機会になった。どうすれば学校図書館に足を運んでもらえるのかを考えるのは難しかったが、実際に来館した方たちを見ることが出来て嬉しかった。スチューデント・ライブラリアンに応募して、活動が出来て良かった。

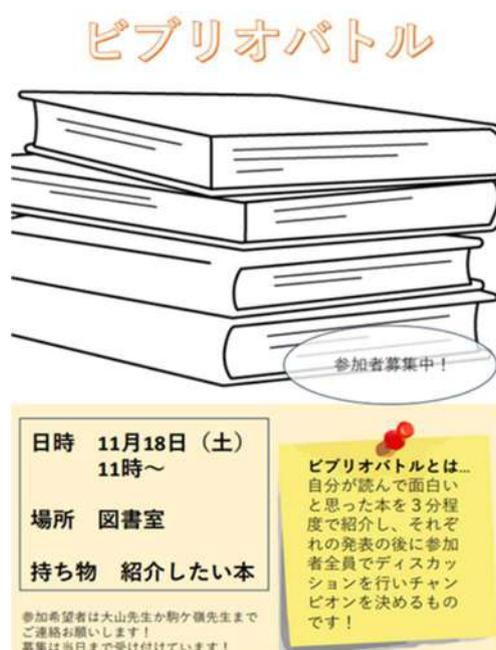


図 2 読書会のポスター

1. はじめに

本年度は大学生6名、高校生2名の計8名という大人数での活動となった。他校の卒業生と高校一年生という編成であったため杉並高校についての知識が乏しく、先生方に教えを乞いながら「今の杉並高校の実態を知ること」、「図書館の存在を発信すること」を意識して活動に取り組んだ。本年度行った活動は①緑苑祭での展示、②ビブリオバトルの2つである。以下にそれぞれの成果や反省点を述べる。

2. 活動詳細

① 緑苑祭での展示

緑苑祭では杉並高校図書室にてライブラリーナビ、本の福袋、課題図書ランキングの3つの展示を2日間行った。

● ライブラリーナビ

ライブラリーナビとは図書館の資料や施設、サービスについてまとめた蛇腹折りのリーフレットである。展示にあたって図書委員会に作成を依頼し、「リエゾン文庫」、「多読本」、「雑誌コーナー」、「DVD」、「課題図書」、「図書館利用案内」、「卒論」、「中大縁関連」の8テーマ、合計24作品を展示した。

● 本の福袋

本の福袋は設定したテーマに関する本を複数組み合わせる薦める読書推進活動の一種である。完全に中身を伏せた状態で貸し出す方法もあるが、今回は文化祭の、校外の方も来場するという特性を考慮して福袋の中身が分かる状態で展示し、書影とあらすじを印刷した紙を来場者が持ち帰れる形式をとった。実際に手に取れる資料と持ち帰ることが出来るプリントを用意することで本を身近に感じてもらい学校図書館や公共図書館の利用につなげることを狙った。

3冊を一組とし、リエゾン文庫（中央大学文学部の各専攻に関する書籍を集めた文庫）から3種、課題図書（高校生に学年別で課される読書課題）から3種の計6種類の福袋を展示した。以下は選出した資料の一覧である。



リエゾン文庫		
国文学専攻	社会情報学専攻	哲学専攻
漫画方丈記	うわさの謎	青空のむこう
鴨長明/漫画 信吉	川上善郎・佐藤達哉・松田美佐	アレックス・シアラー
オノマトペの謎	うわさとは何か	コンビニ人間
窪田晴夫	松田美佐	村田沙耶香
テレビドラマを学問する	図書館戦争	春、戻る
宇佐美敦	有川浩	瀬尾まいこ
課題図書		
①	②	③
西の魔女が死んだ	羊と鋼の森	青の数字
梨木書歩	宮下奈都	玉城夕紀
人魚の嘆き 魔術師	コンビニ人間	下町ロケット
谷崎潤一郎	村田沙耶香	池井戸潤
魔女の1ダース	君の膵臓を食べたい	僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー
米原万里	住野よる	ブレイディみかこ

● 課題図書ランキング

前述の課題図書の人気について、杉並高校の生徒に対してアンケート調査を行い、ランキング形式で掲示した。人気のあった資料は机に並べ、手にとって読めるように展示した。ポスターについても学年色を用いるなど視覚的に分かりやすくなるよう工夫した。

② ビブリオバトル

前年まで行っていた、一冊の本を参加者全員が読んで集まる読書会に代えて、参加者それぞれが本を持ち寄り魅力をプレゼンテーションするビブリオバトルを行った。参加者が新たな本に出会う機会となった。

3. 活動を通して

まず、良かった点は参加した学生の個性を生かす活動が出来た点である。具体的には、大学生のうち4名が司書課程履修者であり、3専攻の学生が集まったためそれぞれの学びをもとに企画を立案することが出来た。また、高校生2名が図書委員会所属であったことから図書委員会の協力を得て企画を行うことが出来た。一方、反省点としてスケジュール調整が上手くいかず例年のような一体となった活動は出来なかったこと、利用者への積極的なアプローチが少なく活動の効果を感じられなかったことの2点が挙げられる。前者については学年も専攻も様々な学生が集まり全員で活動に参加することを求められると対応することが難しかったため、来年度以降人数が多い場合はオンラインでのミーティングを活用し、それぞれの企画について担当者を明確にして進めることが必要であると考えます。後者についてはサービスを届けたい利用者像をはっきりと思い浮かべ、その人に届くように努力することが必要であったと感じる。学校図書館で活動するという機会を十分に生かせるかは自分次第であると痛感したため来年度の参加者にはより能動的に活動してほしいと思う。

1. はじめに

2023年度のスチューデント・ライブラリアン活動は、大学生6名、高校生2名で行われた。杉並高校の大山先生と駒ヶ嶺先生の指導のもと、緑苑祭展示などを中心に活動した。以下、活動成果や活動全体を通じた反省等を記録する。

2. 活動内容

(i) 緑苑祭展示

緑苑祭では、主に3つの展示を行った。

1つ目は、ライブラリーナビである。ライブラリーナビとは、神奈川県在学校図書館研究会発祥のもので、図書館利用者をナビゲートする目的で作られた手のひらサイズのじゃばら折りリーフレットである。杉並高校の図書委員会に作成を依頼し、「リエゾン文庫」「多読本」「雑誌コーナー」「DVD」「課題図書」「図書館利用案内」「卒論」「中大縁関連」の8つのテーマに分けて計24枚を展示した。小さくて手に取りやすいサイズなので、通りすがりに興味をもってくださる来場者も多く見受けられた。



2つ目は、本の福袋である。設定したテーマに関する本をライブラリアンが選んで3冊1セットの福袋を作成するという形式で、リエゾン文庫（中央大学文学部の各専攻に関する書籍を集めた文庫）から3種、課題図書（高校生に学年別で課される読書課題）から3種の計6種類の福袋を展示した。また、数の関係上実際に貸し出すことが難しいため、本の書影とあらすじを入れた封筒を用意し、来場者が持ち帰れるよう工夫した。今回は福袋の中身が見えるような状態で展示を行ったが、本を手にとって見ることができたため、滞在時間が短い来場者にもわかりやすい展示になったのではないと思う。来場者には受験生や親子連れが多かったので、課題図書やリエゾン文庫による高大連携など、杉並高校独自の取り組みを知ってもらえる良い機会になったと考える。



3つ目は、課題図書ランキングである。杉並高校の生徒にアンケートを取り、学年別で人気の課題図書をランキング化し、ランキングに入っていた本の実物も合わせて展示した。杉並高校では課題図書を3年間で100冊読むという取り組みが行われていることから、他の学年の生徒が面白いと思う課題図書を知ることができれば生徒の前向きな読書活動につながるのではないかと考え、ランキングを作成した。同じ本が複数の学年でランクインしているなど興味深い結果となり、杉並高校の生徒だけでなく先生方に



も注目していただけるような展示を行うことができた。

(ii) ビブリオバトル

11月に大学生2名、高校生5名で行われた。初心者でも楽しめるよう、勝敗は決めないという形がとられた。筆者は授業との兼ね合いで参加することが叶わなかったが、高校生の意欲的な参加もあり、大学生も高校生もお互いに刺激を受けることができる非常に有意義な活動となったようである。

3. 活動全体を通して

1年間のスチューデント・ライブラリアン活動を通して、学校図書館の役割や在り方について考え直すきっかけとなった。学校図書館を利用する生徒が少ないというお話を聞いて、来年度以降の活動では、スチューデント・ライブラリアンが杉並高校の図書委員会や先生方とより協力し、杉並高校全体の読書活動を活性化していけるよう努力することが必要であると感じた。また、活動を行っていくなかで、図書館利用者の目線に立って利用者の需要に応えることの重要性を学ぶことができた。活動報告会では、先生方から人と人をつなぎコミュニティを作っていく場としての新しい図書館の在り方についてお話をいただいたので、今回の活動で得た経験をもとに今後の生活や授業のなかで、これからの時代に図書館に求められる役割や需要に応じていく方法について意識を向けていきたい。

【はじめに】

2023年度のスチューデント・ライブラリアンの活動は大学生6名、高校生2名の合計八名で行われた。大学生のうち4名が司書課程を履修している学生である。オンラインでの話し合い、大学生が中央大学附属杉並高校へ訪問し対面での話し合い及び活動を行った。中心的な活動としては文化祭である緑苑祭での展示や企画が挙げられる。活動の詳細及び反省点等を以下に述べていく。



【活動の詳細】

今年度行った活動として大きく3点あげられる。緑苑祭で実施したライブラリーナビ、本の福袋と課題図書ランキング展示と有志の学生と実施したビブリオバトル(読書会)である。以下にそれぞれの詳細を挙げる。

① ライブラリーナビ

ライブラリーナビとは手のひらサイズでじゃばら折りのリーフレットの一種であり図書館に関する話題が書かれたもののことを指す。今回は右写真のように色画用紙を使用し作成した。ライブラリーナビの作成にあたっては杉並高校の図書委員会に協力していただいた。今回は大学生側がリエゾン文庫、課題図書、卒論、中央大学に縁がある事物(卒業生など)などの杉並高校ならではの内容を含んだ合計8つのテーマを決め、図書委員会に1クラス1つの作成を依頼し合計24個のライブラリーナビを完成させることができた。構成などはほとんど高校生に任せた。緑苑祭当日は図書室の机の上に並べ、訪れた方が自由に閲覧できるようにした。



② 本の福袋

各テーマに関する本を3冊選書しそれらを紙袋に入れ展示をした。今回は中身が見える状態で展示し、より本に興味を持ってもらえるよう工夫をした。スチューデントライブラリアンの高校生から普段は学校の図書室以外に地元の図書館を利用する機会が多いと聞いたため、本の表紙があれば学校外の施設で借りる手助けになると思い用意をした。今回設けたテーマは今年度のスチューデントライブラリアンの専攻である社会情報、国文学、哲学の3つをリエゾン文庫から選書することに加えて杉並高校の課題図書を学年別で選書をし、合計6つの福袋を作成した。リエゾン文庫からの選書では中央大学と附属高校の高大連携を意識し、課題図書は杉並高校の生徒だけではなく学校見学の一環で訪れる受験生への発信も意識をした。



③ 課題ランキング

杉並高校の生徒にアンケートを取り、課題図書の人気ランキングを掲示し緑苑祭当日には実物も展示をした。杉並高校では卒業までに100冊を読むという目標が定められているため、他学年ではどのような本が人気なのかを知ることで前向きな読書活動に繋がるのではないかと思い作成した。

④ ビブリオバトル(読書会)

11月に杉並高校にて実施した。参加者は大学生のチューデントライブラリアン2名と高校生5名である。ビブリオバトルではありながらも楽しむことを重視し勝敗は決めず、本の紹介を中心とした。大学生と高校生の読書を通じた交流を行うことが出来た。想定よりも高校生の紹介に熱があり、次年度以降開催する場合は本格的なビブリオバトルを行ってもいいように感じた。

【反省点】

全体の反省として今年度は大学生が6名と多く、高校生が1年生でまだ高校生活に不慣れなことから大学生主導で活動を進めてしまい高校生の活動が少なくなってしまった点が挙げられる。複数人いるため仕方ない部分はあるがチューデントライブラリアン全員が対面で揃った機会が少ないことも反省すべき点である。また具体的な活動内容を決めないまま杉並高校に訪問することは多く、早々と解散することが多く反省するべきかと思う。文化祭当日も図書室に訪問する人が少なかったこともあり、待機中も手持ち無沙汰になりがちであった。

【おわりに】

地方から上京をした私個人としては都内の付属高校の生徒と交流することで様々な発見があり貴重な機会であった。杉並高校の生徒や先生方とのやり取りの中からも若い世代と読書に関する課題知ることが出来た。読書の楽しさ面白さをどのように伝えられるか、図書館をより快適な場所にするにはどうしたらよいかを考えながらこれからも司書課程で学んでいきたい。

1. はじめに

本年度のスチューデント・ライブラリアン活動は大学生 6 人、高校生 2 人で、打ち合わせや最終成果発表会なども含め計 10 回行われた。主な活動としては、(i) ライブラリーナビの作成、(ii) 本の福袋 (iii) 緑苑祭での個人的な取り組み (iv) ビブリオバトル を企画し、実際に行った。以下、順に詳細な活動内容を述べていく。

2. 活動詳細

(i) ライブラリーナビの作成

ライブラリーナビとは、手のひらサイズのじゃばら折の小さなリーフレットである。本来ライブラリーナビは図書館利用者の施設利用をサポートするために作られることが多いが、今回はそれを応用し、大学生が用意した 8 テーマ（中央大学杉並高校の図書室にあるリエゾン文庫、多読本、雑誌コーナー、DVD、課題図書、図書館の使い方、卒論、中大杉並高校の卒業生など）から 1 つのテーマを選び、図書委員の高校生に作成してもらった。じゃばら折に苦戦している高校生もいたが、大学生が適宜サポートに入って折り方の指導をした。後日高校生に作成したライブラリーナビを提出してもらい、それらを中大杉並高校の文化祭である「緑苑祭」で展示した。小さいサイズのリーフレットであることとじゃばら折が目を引きののだろうか、たくさんの来場者が展示してあったライブラリーナビを見てくれた。



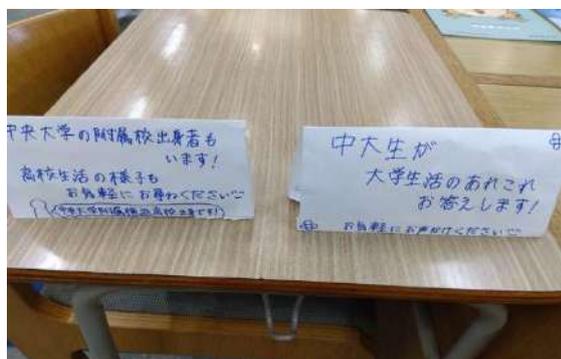
(ii) 本の福袋

本の福袋とは、福袋作成者が推薦する本を紙袋のような中身が見えない袋に入れ、その紙袋に推薦する本の紹介文を書いて貼り付け、本の題名がわからない状態で貸し出すという仕組みである。これを作成することで普段自分が読まないような本に出会えることが魅力である。今回は大学生を専攻で分け、「〇〇専攻が推薦する本」といった形で福袋を作成した。専攻名と本の題名を重ね合わせたときに、その専攻らしさが出ている本の選択もあれば、専攻からは全く想像のできない本を推薦している大学生もいて面白かった。紙袋に貼り付けた本の紹介文を印刷したものを持ち帰ってくれた来場者もいた。



(iii) 緑苑祭での個人的な取り組み

筆者が中央大学附属横浜高校の出身であることから、緑苑祭中に図書室で個人的に、かなり簡易的な高校、大学生活相談会を宣伝し、行った。緑苑祭当日に思いつきで始めたため相談会に参加した人は皆無に等しいが、実際に「子供が商学部に進学しようとしているが、4年間同じキャンパスで過ごすのか」といった大学に内部進学する予定の高校生の保護者から質問された。



(iv) ビブリオバトル

ビブリオバトルとは、自分が推薦する本を参加者に紹介し、誰が紹介した本が最も読みたくなったかを競うものである。ただ今回は「ゆるいビブリオバトル」をモットーに、このビブリオバトルで勝敗を決めるのではなく、本の紹介を中心とすることで参加者が新たな本に出会える機会とすることを心がけた。大学生は1人あたりの本の紹介時間を2、3分だと想定していたが、高校生が私たちが予想していたよりも詳しく本の内容やおすすめポイントを紹介してくれた。なかには紹介が5分を超える1年生もいた。参加してくれる高校生が今までに読んだことのない分野の本に出会えれば良いと思いこのような場を設けたが、参加した大学生にとっても新たな本に出会えた良い機会となった。

3. 活動を通して

大学生が6人だったため日程調整がかなり難しく、6人全員が活動に参加できた日がなかったことは残念なことだった。ただその日に何をやったのか、活動内容の引き継ぎがしっかりとできていたことは良かった点として挙げられるだろう。高校生に本の魅力を知ってもらうだけではなく、附属高校と大学の関係性であることを活かし、大学の各専攻ごとの学びや大学生活全般の相談相手として大学生が求められていると感じた。今後は高校と大学が附属である関係性と読書を結びつけた企画があれば、さらに中大の大学生がこの活動に参加する確実な意義が見出せるのではないかと感じた。

はじめに

私は大学入学以前から大学卒業後の進路として図書館司書になることを考えており現在社会情報学専攻のなかの図書館情報学コースに所属している。図書館情報学コースといっても一年次は専門科目が少なく、図書館のことを具体的に学ぶ機会が少なく感じていた。そこで「スチューデント・ライブラリアン」の募集を見つけ実際に現場で司書に関する実務を経験できる点に魅力を感じたため応募した。

活動について

2023年度の「スチューデント・ライブラリアン」活動では先生方のアドバイスを受けながら中央大学生6名、中央大学杉並高校の高校生2名の計8人で活動した。本年度は新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきたこともあり対面での活動を中心に行うことができた。(全9回の活動のうち7回が対面での活動)

<活動スケジュール>

- 6月 オンライン上で顔合わせ、高校生のスチューデント・ライブラリアン募集のためのポスター制作
- 7月 オンライン上で会議、対面で今後の活動についての指針決め
- 8月 杉並高校の図書館で緑苑祭（文化祭）での展示に関する話し合い、準備
- 9月 緑苑祭、ライブラリーナビ作成
- 11月 ビブリオバトルの開催
- 3月 中央大学にて活動報告会

本年度の活動では大学生のスチューデント・ライブラリアンが例年より多く集まったためそれぞれの担当を決め役割分担をしながら活動した。

特に緑苑祭での展示は①ライブラリーナビ②本の福袋③課題図書ランキングと盛りだくさんな内容であったため担当者が中心となりつつ全員で協力しながら活動することができた。私は③の課題図書ランキングとビブリオバトルを担当していた。

■課題図書ランキング

杉並高校では生徒の読書量向上を目的とし、それぞれの学年、学期ごとに先生方が選出した課題図書を読むという取り組みが行われている。課題図書は杉並高校の国語のテストにも問題として出題されており杉並高生にとっては身近な存在でもあり少し眉を顰めたくなるような存在でもあると聞いていた。そこで生徒さんが課題図書を読むことに前向きになってほしい、あるいは普段本を読むことが得意でない人も本を手にするきっかけになってほしいという思いをこめ課題図書ランキングを作成した。

緑苑祭の展示では集計したランキングを模造紙に書き出し張り出すという取り組みをした。加えて、ランクインした本をランキング表の近くに並べることで足を止

めてくれた方々がすぐに本を手にとれるように工夫した。実際見に来てくれた生徒さんの「懐かしい！」という声や「意外！」という声を聴くことができ、楽しんでいただけているなど感じる事ができた。



■ビブリオバトル

今年度は例年のような読書会ではなく、ビブリオバトルを行った。まず、開催にあたって参加者を募るため下記のようなポスターを作製した。



当日はスチューデント・ライブラリアンの大学生2名と高校生1名、一般の高校生4名の計7名で行った。

はじめに簡単なルール説明を行った後に二つのグループに分かれそれぞれが持ち寄った本の紹介をした。私のグループでは一般の高校生2名とともにビブリオバトルを行った。「ビブリオバトルとはいっても堅苦しいものではなく本のオススメポイントを教えてくれればいいよ」と声をかけたところ参加者の二人もだんだん話が盛り上がってきて全体的によい雰囲気で行うことができた。

おわりに

今回スチューデント・ライブラリアン活動に参加してみて学校図書館の運営の難しさを知ることができた。体験したのは学校図書館を盛り上げるための企画という面であったが、どうしたら利用者が増えるか、利用者に快適に過ごしてもらえるのかを考えるにあたって図書館の現状と生徒さんたちの意見をくみ取りながら企画を考えるということに苦戦した。しかし、行った企画に対してよい意見を貰えたことが非常にうれしく、達成感を得ることができた。今後はこの経験を活かし図書館のことについてさらに意欲的に学んでいきたい。



リエゾン文庫書目一覧 (2024年4月11日現在)

題目	著者等	出版社	配架先*
国文学専攻			
宇佐美ゼミ 第十六号 報告集 文学部国文学専攻 2013	宇佐美毅	宇佐美ゼミナール 報告集	杉並
学研まんが 日本の古典 まんがで読む万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	吉野朋美 監修	学研	杉並
後鳥羽院 コレクション日本歌人選 028	吉野朋美	笠間書院	杉並
西行全歌集	久保田淳・吉野朋美 校注	岩波文庫フェア	杉並
武士の家計簿 —「加賀藩御算用者」の幕末維新	磯田道史	新潮新書	杉並
大学授業がやってきた! 知の冒険	桐光学園特別授業	水曜社	杉並、横浜
テレビドラマを学問する	宇佐美毅	中央大学出版部	杉並、横浜
中島敦『李陵・司馬遷』定本篇	中島敦	中島敦の会	杉並、横浜
中島敦『李陵・司馬遷』図版篇	中島敦	中島敦の会	杉並、横浜
中島敦とその時代	山下真史	双文社出版	杉並
2014年度 第17号 宇佐美ゼミ報告集	宇佐美毅		杉並
白門國文 第26号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第27号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第28号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第29号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第30号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第31号	中央大學國文學會		横浜
村上春樹と一九八〇年代	宇佐美毅、千田洋幸 編	おうふう	杉並、横浜
村上春樹と一九九〇年代	宇佐美毅、千田洋幸 編	おうふう	杉並、横浜
慶安の触書は出されたか(日本史リブレット)	山本英二	山川書店	杉並
中央大学白門國文 第56号	中央大學國文學會		横浜
中央大学白門國文 第57号	中央大學國文學會		横浜
書籍文化史一	山本英二・丹羽謙治・磯部敦・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史二	綿抜豊昭・中島穂高・鈴木圭一・浅岡邦雄・ 磯部敦・本多朱里・古相正美・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史三	柳沢昌紀・竹松幸香・合山林太郎・大竹寿 子・浅岡邦雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史四	ピーター・コーニッキー・綿抜豊昭・勝又基・小林ふ み子・中澤伸弘・木越俊介・鈴木圭一・山本 英二・磯部敦・鈴木俊幸・瀧田裕子	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史五	柏崎順子・金井圭太郎・浅岡邦雄・鈴木俊 幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史六	堀川貴司・鈴木圭一・杉仁・蔵元朋依・磯部 敦・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
題目	著者等	出版社	配架先*

書籍文化史七	高橋章則・中澤伸弘・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史八	岩坪充雄・杉仁・磯部敦・鈴木俊幸・高橋章則・高橋明彦・古相正美・五嶋靖弘・瀧田裕子・田村悦子・鄭恵珍・小村伊織・中道雅俊・矢澤由紀・宮田奈津紀・梁爽	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史九	岩坪充雄・中澤伸弘・膽吹覚・牧野正久・高橋明彦・西谷泉・玉置豊美	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十	中澤伸弘・鈴木圭一・青柳涼子・素野辰也・檜垣優・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十一	中澤伸弘・高木浩明・青柳涼子・鈴木翔・素野辰也・檜垣優・磯部敦・岩坪充雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十二	岩坪充雄・堀川貴司・中澤伸弘・高橋明彦・稲岡勝・青柳涼子・梅澤亜矢・鈴木翔・素野辰也・鈴木俊幸・高木浩明・太田正弘	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十三	岩坪充雄・神林尚子・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・早川由美・2011 年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十四	岩坪充雄・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十五	岩坪充雄・稲岡勝・高木浩明・2013 年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十六	堀部正円・岩坪充雄・太田正弘・中澤伸弘・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ・高木浩明	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十七	太田正弘・高木浩明・鈴木圭一・中澤伸弘・稲岡勝・岩坪充雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十八	太田正弘・岩坪充雄・高木浩明・堀部正円・中澤伸弘・中川和明・稲岡勝・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十九	高木浩明・中澤伸弘・膽吹覚・岩坪充雄・稲岡勝・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
報告集第二十号	宇佐美ゼミ	宇佐美ゼミナル報告集	杉並、横浜
報告集第二十一号	宇佐美ゼミ学生	宇佐美ゼミナル報告集	杉並、横浜
白門國文 第 37 号	降旗おおり/池田奈々帆/岡野屋実幸/中村薫/増永亜夕/野口優香/豊島朋香/茂木彩花/宇佐美毅/池田奈美	中央大學國文學會	杉並、横浜
中央大學國文	池田和臣/関礼子	中央大學國文學會	杉並、横浜
題目	著者等	出版社	配架先*
中島敦の絵はがき—南洋から愛息へ	山下真史	中島敦の会	杉並、横浜

USAMI報告集第二十一号	宇佐美毅 2018 年度学生	株式会社ポプルス	杉並、横浜
USAMI報告集第二十二号	宇佐美毅 2019 年度学生	株式会社ポプルス	杉並、横浜
週刊宇佐美 23 宇佐美ゼミ報告集	宇佐美毅 2020 年度学生	株式会社ポプルス	杉並、横浜
村上春樹と二十一世紀	宇佐美毅/千田洋幸	株式会社おうふう	杉並、横浜
中央大學國文第六十五号	小野泰央/島田遼/綿坂豊昭/小野寺貴之/ 鈴木俊幸/富塚昌輝/山下真史/宇佐美毅/	中央大學國文學會	杉並、横浜
白門國文第 39 号	宇崎七海/三浦千枝/田本天那/鷹巢宝乃/ 田中里奈/内藤夕衣/松山みずほ/宇佐美 毅/川島優佳	中央大學國文學會	杉並、横浜
英語文学文化専攻			
愛の技法 クィア・リーディングとは何か	中央大学人文科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
アメリカ太平洋研究 Vol.16 March 2016	東京大学大学院総合文化研究科 アメリカ太平洋地域研究センター		杉並、横浜
アン・ブロンテ 二十一世紀の再評価	大田美和	中央大学出版部	杉並、横浜
英国小説研究 第 22 冊	「英国小説研究」同人	英潮社	杉並、横浜
英米文学研究 第 31 号	兼武道子他	中央大学文学部 英米文学会	杉並
大田美和の本	大田美和	北冬舎	杉並、横浜
きらい 大田美和歌集	大田美和	河出書房新社	杉並、横浜
葡萄の香り、噴水の匂い	大田美和	北冬舎	杉並、横浜
ブロンテ姉妹の世界	内田能嗣	ミネルヴァ書房	杉並、横浜
北冬 No.013	北冬舎	北冬舎	杉並、横浜
ミッキーはなぜ口笛を吹くのか	細馬宏通	新潮選書	杉並
夜のミッキー・マウス	谷川俊太郎	新潮文庫	杉並
レクイエム	田口智子・絵、大田美和・短歌	エディション q	杉並、横浜
記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞	門田隆将	角川文庫	杉並、横浜
人生の意味論	河西良治	開拓社	杉並、横浜
2019AJALT	埴仁礼子(編集長)	国際日本語普及協会	杉並、横浜
めぐりあうテキストたち ブロンテ文学部の遺産と影響	惣谷美智子/岩上はる子編	春風社	杉並、横浜
読むことのクィア 続 愛の技法	中央大学自分科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
大田美和詩集二〇〇四—二〇二一	大田美和	北冬舎	杉並、横浜
詩の檻はない〜アフガニスタンにおける検閲と芸術の弾 圧に対する詩的抗議〜	ソマイア・ラミシュ/安藤厚訳	デザインエッグ社	杉並、横浜
ドイツ語文学文化専攻			
クレーの絵本	谷川俊太郎	講談社	杉並
ジビレ・レヴィチャロフの小説『ブルーメンベルク』文化史 と不死性(ドイツ文化 第六十七号抜刷)	縄田雄二	中央大学ドイツ学会	杉並
題目	著者等	出版社	配架先*

ドイツ語資料から見た留学期の斎藤茂吉 (ドイツ文化 第五十五号抜刷)	縄田雄二	中央大学ドイツ学会	杉並
ドイツの歴史教育	川喜田敦子	白水社	杉並
ドゥルス・グリュンバイン詩集 墓碑銘・日本紀行	縄田雄二 編訳	中央大学出版部	杉並
マルセル・バイアー講演 翳 (紀要抜刷 文学科第九十号)	縄田雄二	中央大学文学部	杉並
現代詩手帖	藤井一乃	思潮社	杉並、横浜
フランス語文学文化専攻			
九十三年(上下)	ヴィクトル・ユゴー	潮文学ライブラリー	杉並
ゴヤ 啓蒙の光の影で	T.トドロフ、小野潮 訳	法政大学出版局	杉並
ジャン＝ジャック・ルソー 自己充足の哲学	永見文雄	勁草書房	横浜
十九世紀フランス文学を学ぶ人のために	小倉孝誠	世界思想社	杉並
西洋美術への招待	田中英道 監修	東北大学出版会	杉並
対訳 フランス語で読む「赤と黒」	小野潮	白水社	杉並
中大仏文研究 第45号	中大仏文研究会		横浜
中大仏文研究 第46号	中大仏文研究会		横浜
フクシマ・ノート 忘れない、災禍の物語	ミカエル・フェリエ、義江真木子	新評論	杉並、横浜
フランス革命と文学	ベアトリス・ディディエ	白水社	杉並
フランス 19世紀絵画	阿部成樹 他	ホワイティング・インターナショナル	杉並、横浜
屈服しない人々	ツヴェタン・トドロフ小野潮訳	新評論	杉並、横浜
ゴヤ 啓蒙の光の影で	ツヴェタン・トドロフ小野潮訳	法政大学出版局	杉並、横浜
ジェルメーン・ティヨン	ティヨン著小野潮訳	法政大学出版局	杉並、横浜
野蛮への恐怖、文明への怨念	ツヴェタン・トドロフ 大谷尚文・小野潮訳	新評論	杉並、横浜
デイドロ限界の思考	田口卓臣	風間書房	杉並、横浜
怪物的思考 近代思想の転覆者デイドロ	田口卓臣	講談社選書メチエ	杉並、横浜
ペルシア人の手紙	シャルル＝ルイ・ド・モンテスキュー/田口卓臣訳	講談社学術文庫	杉並、横浜
脱原発の哲学	佐藤嘉幸/田口卓臣	人文書院	杉並、横浜
善のはかなさ	ツヴェタン・トドロフ/小野潮訳	新評論	杉並、横浜
作家たちのフランス革命	三浦信孝	白水社	杉並、横浜
中国言語文化専攻			
現代中国のポピュラーカルチャー	飯塚容 他	勉誠出版	杉並
現代中国文化の光芒	中央大学人文科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
死者たちの七日間	余華、飯塚容 訳	河出書房新社	杉並
中国故事	飯塚朗	角川ソフィア文庫	杉並、横浜
中国人エリートは日本人をこう見る	中島恵	日経プレミアシリーズ	杉並
中国の「新劇」と日本 「文明戯」の研究	飯塚容	中央大学出版部	杉並
富萍 上海に生きる	王安憶、飯塚容・宮入いずみ 訳	勉誠出版	杉並
霊山	高行健、飯塚容 訳	集英社	杉並
題目	著者等	出版社	配架先*

中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす	遠藤誉	日経 BP 社	杉並
会うための別れ 過士行 短編小説集	菱沼彬晃 訳	晩成書房	杉並、横浜
父を想う ある中国作家の自省と回想	閻連科、飯塚容 訳	河出書房新社	杉並、横浜
いま、世界で読まれている 105 冊 2013	TEN-BOOKS 編	テン・ブックス	杉並、横浜
文化大革命を問い直す	朝浩之・金野純・陳継東・前田年昭 印紅 標・鈴木一誌・森瑞枝・松本潤一郎・及川淳子		杉並、横浜
中国リベラルズムの政治空間	李偉東・鈴木賢・及川淳子・秦暉・徐友漁・ 梶谷懐・王侃・吉岡桂子・栄剣・牧陽一・賀 衛方・阿古智子・水谷尚子・王建勛・張博樹		杉並、横浜
最後の審判を生き延びて	劉曉波		杉並、横浜
憎しみに未来はない 中日関係新思考	馬立誠		杉並、横浜
中国語で伝えたい自分のこと日本のこと	及川淳子		杉並、横浜
わたしの中国語 32 のフレーズでこんなに伝わる	及川淳子		杉並、横浜
おもてなしの中国語 2018 年度 4-9	及川淳子		杉並、横浜
おもてなしの中国語 2018 年度 10-3	及川淳子		杉並、横浜
中国語をはじめよう	及川淳子		杉並、横浜
現代中国を知るための44章	藤野彰・曾根康雄		杉並、横浜
上海	榎本泰子		杉並、横浜
アジアと生きるアジアで生きる	鄭俊坤・金大偉・柳玖熙・飯塚容・大田美 和・藤岡朝子・妹尾達彦・村上薫・佐藤洋 治・長谷川彩未・ローマ・ナ・コフラー・鎌田東二・趙 維平・麻生晴一郎		杉並、横浜
作家たちの愚かしくも愛すべき中国	高行健・余華・閻連科		杉並、横浜
11 通の手紙	及川淳子	小学館	杉並、横浜
銃弾とアヘン	廖亦武・土屋昌明/鳥本まさき/及川淳子訳	白水社	杉並、横浜
起きてから寝るまで中国語表現 1000	顧蘭亭/及川淳子	アルク	杉並、横浜
現代中国を知るための52章	藤野彰	明石書店	杉並、横浜
「〇八憲章」で学ぶ教養中国語	劉燕子/及川淳子	集告舎	杉並、横浜
六四と一九八九	石井知章/及川淳子/アントリュー・ネイサン/胡平 /王丹/張博樹/李偉東/矢吹晋/大熊雄一 郎	白水社	杉並、横浜
11 封信	及川淳子/劉燕子・及川淳子訳	新鋭文創	杉並、横浜
よくわかる現代中国政治	川島真/小嶋華津子	ミネルヴァ書房	杉並、横浜
普遍的価値を求める	許紀霖/中島隆博・王前監訳	法政大学出版局	杉並、横浜
紅い帝国の論理 新全体主義に隠されたもの	張博樹/中村達雄・及川淳子訳	白水社	杉並、横浜
シリーズ地域研究のすすめ 3 ようこそ中華世界へ	川島真	昭和堂	杉並、横浜
題目	著者等	出版社	配架先*
日本史学専攻			

外務官僚たちの太平洋戦争	佐藤元英	NHK ブックス	杉並、横浜
魏志倭人伝の考古学	佐原真	岩波書店	杉並
3・11複合災害と日本の課題	佐藤元英、滝田堅持	中央大学出版部	横浜
市民の考古学4 考古学でつづる日本史	藤本強	同成社	杉並
昭和初期対中国政策の研究 田中内閣の対満蒙政策	佐藤元英	原書房	杉並
縄文社会研究の新視点 -炭素 14 年代測定の利用-	小林謙一	六一書房	横浜
中央史学 創刊号	中央史学会		横浜
中央史学 第2号	中央史学会		横浜
中央史学 第3号	中央史学会		横浜
中央史学 第4号	中央史学会		横浜
中央史学 第5号	中央史学会		横浜
中央史学 第6号	中央史学会		横浜
中央史学 第7号	中央史学会		横浜
中央史学 第8号	中央史学会		横浜
中央史学 第9号	中央史学会		横浜
中央史学 第10号	中央史学会		横浜
中央史学 第11号	中央史学会		横浜
中央史学 第12号	中央史学会		横浜
中央史学 第14号	中央史学会		横浜
中央史学 第15号	中央史学会		横浜
中央史学 第17号	中央史学会		横浜
中央史学 第19号	中央史学会		横浜
中央史学 第20号	中央史学会		横浜
中央史学 第21号	中央史学会		横浜
中央史学 第22号	中央史学会		横浜
中央史学 第23号	中央史学会		横浜
中央史学 第24号	中央史学会		横浜
中央史学 第25号	中央史学会		横浜
中央史学 第27号	中央史学会		横浜
中央史学 第29号	中央史学会		横浜
中央史学 第31号	中央史学会		横浜
中央史学 第32号	中央史学会		横浜
中央史学 第34号	中央史学会		横浜
中央史学 第35号	中央史学会		横浜
中央史学 第36号	中央史学会		横浜
中央史学 第37号	中央史学会		横浜
日本の中世12 村の戦争と平和	坂田聡、榎原雅治、稲葉継陽	中央公論新社	杉並
題目	著者等	出版社	配架先*
発掘で探る縄文の暮らし 中央大学の考古学	小林謙一	中央大学出版部	杉並、横浜
苗字と名前の歴史	坂田聡	吉川弘文館	杉並

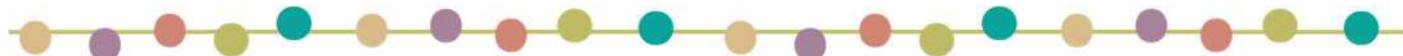
民衆と天皇	坂田聡、吉岡拓	高志書院	杉並
公害スタディーズ	安藤聡彦/林美帆/丹野春香	ころから	杉並、横浜
東京 10 大学の 150 年史	小林和幸	筑摩書房	筑摩書房
東洋史学専攻			
アジア史における制度と社会	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並
池田雄一教授古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並
イスラム世界論 トリックスターとしての神	加藤博	東京大学出版会	杉並
環境から解く古代中国	原宗子	大修館書店	杉並
菊池英夫教授山崎利男教授古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	刀水書房	杉並
サラディン イエルサレム奪回	松田俊道	山川出版社	杉並、横浜
中央大学 アジア史研究 第 37 号	白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室		横浜
中央大学 アジア史研究 第 38 号	白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室		横浜
中央大学東洋史学専攻創設五十周年記念 アジア史論叢	白東史学会	白東史学会	杉並
明代中国の疑獄事件	川越泰博	風響社	杉並
遊牧民から見た世界史 増補版	杉山正明	日本経済新聞出版社	杉並
四字熟語歴史漫筆	川越泰博	大修館書店	杉並
川越泰博教授 古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並、横浜
アンコール遺跡と社会文化発展 アンコール・ワットの解明4	石澤良昭 監修・坪井善明 編	連合出版	杉並、横浜
カンボジアの民話世界	高橋宏明 訳／編	めこん	杉並、横浜
グローバル・ヒストリー	妹尾達彦	中央大学出版部	杉並、横浜
中国史で読み解く故事成語	阿部幸信	山川出版社	杉並、横浜
西洋史学専攻			
英雄詩とは何か	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
近世ヨーロッパ軍事史	A・バルベロー	論創社	杉並
広義の軍事史と近世ドイツ —集権的アリストクラシー・近代転換期	鈴木直志	彩流社	杉並
哲学専攻			
愛の哲学、孤独の哲学	アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳	紀伊國屋書店	杉並
ウイトゲンシュタイン ネクタイをしない哲学者	中村昇	白水社	杉並
ウイトゲンシュタイン「哲学探究」入門	中村昇	教育評論社	杉並、横浜
小林秀雄とウイトゲンシュタイン	中村昇	春風社	杉並、横浜
ささやかながら、徳について	アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳	紀伊國屋書店	杉並
シーシュポスの神話	カミュ	新潮文庫	杉並
色彩について	ルートヴィヒ・ウイトゲンシュタイン、 中村昇、他 訳	新書館	杉並
題目	著者等	出版社	配架先*
ベルクソン=時間と空間の哲学	中村昇	講談社	杉並、横浜
ホワイトヘッドの哲学	中村昇	講談社	杉並、横浜
母の発達	笙野頼子	河出文庫	杉並

どこでもないところからの眺め	トマス・ネーゲル、中村昇、他 訳	春秋社	横浜
イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読める! 哲学	青木滋之	西東社	杉並、横浜
社会学専攻			
【改訂版】戦後日本青少年問題考	矢島正見	一般財団法人 青少年問題研究会	杉並、横浜
家族革命	清水浩昭、森謙二、岩上真珠、山田昌弘	弘文堂	杉並、横浜
「家族」難民 生涯未婚率 25%社会の衝撃	山田昌弘	朝日新聞出版	杉並、横浜
家族の衰退が招く未来 「将来の安心」と「経済成長」は取り戻せるか	山田昌弘、塚崎公義	東洋経済新報社	杉並、横浜
家族のリストラクチャリング 21世紀の夫婦・親子はどう生き残るか	山田昌弘	新曜社	杉並、横浜
高校生のための人気学問ガイド	矢島正見	旺文社	杉並
「婚活」時代	山田昌弘、白河桃子	ディスカバー携書	杉並、横浜
少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ	山田昌弘	岩波書店	杉並、横浜
女性活躍後進国ニッポン	山田昌弘	岩波書店	杉並、横浜
震災婚 震災で生き方を変えた女たち ライフスタイル・消費・働き方	白河桃子	ディスカバー携書	杉並、横浜
新平等社会 「希望格差」を超えて	山田昌弘	文芸春秋	杉並、横浜
旅をして、出会い、ともに考える— —大学ではじめてフィールドワークをするひとのために	新原道信	中央大学出版部	杉並
中央社会学 第22号 2013	中央大学文学部社会学会		横浜
中央社会学 第23号 2014	中央大学文学部社会学会		横浜
なぜ若者は保守化するのか 反転する現実と願望	山田昌弘	東洋経済新報社	杉並、横浜
パラサイト社会のゆくえ データで読み解く日本の家族	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
パラサイト・シングルの時代	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
ワーキングプア時代 底抜けセーフティネットを再構築せよ	山田昌弘	文芸春秋	杉並、横浜
結婚クライシス (中流転落不安)	山田昌弘	東京書籍	杉並、横浜
モテる構造 男と女の社会学	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
社会情報学専攻			
インターネットが壊した「こころ」と「言葉」	森田幸孝	幻冬舎 ルネッサンス新書	杉並
うわさとは何か ネットで変容する「最も古いメディア」	松田美佐	中公新書	杉並、横浜
うわさの謎 流言、デマ、ゴシップ、都市伝説はなぜ広がるのか	松田美佐、川上善郎、佐藤達哉	日本実業出版社	杉並、横浜
SF映画で学ぶインタフェースデザイン アイデアと想像力を鍛え上げるための141のレッスン	NATHAN SHEDROFF, CHRISTOPHER NOESSEL	丸善出版	横浜
ケータイ学入門 メディア・コミュニケーションから読み解く 現代社会	松田美佐、岡田朋之	有斐閣	杉並、横浜
ケータイ社会論	松田美佐、岡田朋之	有斐閣	杉並
ケータイのある風景 テクノロジーの日常化を考える	松田美佐、岡部大介、伊藤瑞子	北大路書房	杉並、横浜
C言語によるスーパーLinux プログラミング	飯尾淳	softbank creative	横浜
中央社会情報学第2号	中央大学社会情報学会	中央大学社会情報学会	杉並、横浜
題目	著者等	出版社	配架先
ラーニング・コモンズ	加藤信哉・小山憲司	勁草書房	杉並、横浜
小山ゼミ論文集第1号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナル	杉並、横浜

小山ゼミ論文集第2号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナル	杉並、横浜
社会情報学ハンドブック	吉見俊哉、花田達朗	東京大学出版会	杉並
情報貧国ニッポン～課題と提言	山崎久道	紀伊国屋書店	横浜
図書館・アーカイブズとは何か	粕谷一希、菊池光興、長尾真 編	藤原書店	杉並
趣味とジェンダー	神野由紀／辻泉／飯田豊	青弓社	杉並、横浜
小山ゼミ論文集 第3号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナル	杉並、横浜
小山ゼミ論文集 第5号	小山憲司ゼミナル	中央大学文学部人文 社会学科社会情報学 専攻	杉並、横浜
小山ゼミ論文集第6号	小山憲司ゼミナル学生	小山憲司ゼミナル	杉並、横浜
中央社会情報学第1号	中央大学社会情報学会	中央大学社会情報学 会	杉並、横浜
教育学専攻			
イチから始める 外国人の子供教育	臼井智美 編	教育開発研究所	杉並
教育学をつかむ	木村元、小玉重雄、船橋一男	有斐閣	杉並
まんが クラスメイトは外国人—多文化共生の物語	「外国につながる子供たちの物語」 編集委員会編	明石書店	杉並
能力 2040 AI時代に人間する	池田賢市/市野川容考/伊藤書佳/菊池栄 治/工藤律子/松島健	太田出版	杉並、横浜
学びの本質を解きほぐす	池田賢市	新泉社	杉並、横浜
学校で育むアナキズム	池田賢市	新泉社	杉並、横浜
心理学専攻			
面白いほどよくわかる！臨床心理学	下山晴彦	西東社	杉並
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会	福村出版	横浜
心理学論文の書き方 おいしい論文のレシピ	都筑学	有斐閣アルマ	杉並、横浜
中高生のためのメンタル系サバイバルガイド	松本俊彦 編著	日本評論社	杉並
やさしい青年心理学	白井利明、都筑学、森陽子	有斐閣アルマ	杉並、横浜
やさしい発達心理学 乳児から青年までの発達プロセス	都筑学	ナカニシヤ出版	杉並、横浜
マインドフル・セルフ・コンパッション・ワークブック	クリスティン・ネフ/クリストファー・ガーマー/ 監訳富田拓郎/大宮宗一郎・菊池創・高橋り や・井口萌娜訳	星和書店	杉並、横浜
その他			
アジア史における法と国家	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
アルス・イノヴァティーヴァ	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
イデオロギーとアメリカン・テキスト	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
埋もれた風景たちの発見 ヴィクトリア朝の文芸と文化	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
芸術のイノベーション	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
題目	著者等	出版社	配架先
ツァロートの道 ユダヤ歴史・文化研究	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
民国前期中国と東アジアの変動	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並

文法記述の諸相	野田時寛・藤原浩史・林明子・西沼行博・谷部弘子・工藤早恵・遠藤雅裕・大羽良・若林茂則・市川泰男・新井洋一	中央大学出版部	杉並、横浜
文法記述の諸相Ⅱ	野田時寛・藤原浩史・大羽良・林明子・西沼行博・工藤早恵・遠藤雅裕・堀田隆一・千葉修司・新井洋一	中央大学出版部	杉並、横浜
恋愛 家族 そして未来	中村昇/坂田聡/横湯園子/宇佐美毅/杉崎泰一郎/中尾秀博/野口薫/斉木眞一/榎本泰子/松田俊道/松田美佐/矢島正見/古賀正義	中央大学	杉並、横浜
ミュージアムを知ろう	横山佐紀	ペリカン社	杉並、横浜
学芸員になるには	横山佐紀	ペリカン社	杉並、横浜
人権入門[第4版] —憲法/人権/マイノリティ	横藤田誠/中坂恵美子	(株)法律文化社	杉並、横浜
人の移動とエスニシティ	中坂恵美子/池田賢市	明石書店	杉並、横浜
学びの扉をひらく—時間・記憶・記録—上	中央大学文学部実践的教養演習	中央大学出版部	杉並、横浜
学びの扉をひらく—時間・記憶・記録—下	中央大学文学部実践的教養演習	中央大学出版部	杉並、横浜

配架先* 杉並＝中央大学杉並高等学校 横浜＝中央大学附属横浜高等学校





2023 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告書

2024 年 3 月 31 日 発行

©中央大学文学部